

## 教師教育開発センター紀要 第1号の刊行に寄せて

岡山大学教師教育開発センター長

加賀 勝

日本の教員養成教育は、「大学における教員養成」「開放制」「免許主義」を原則としています。教育学部以外の学生も、大学で必要な単位を揃えることで教員免許を取得できます。この「開放制教員養成制度」は、教員の量的確保に充分貢献したと言われます。しかし、そこにいかなる「質保証」が伴っていたか？という疑問は、戦後一貫して問われつづけてきました。平成22年4月に創設した「岡山大学教師教育開発センター」は、この問いに対する本学からの「回答」です。

本学は教育学部に加えて7つの課程認定学部（文学部、法学部、経済学部、理学部、工学部、環境理工学部、農学部）を擁し、例年約500名の学生が教員免許を取得して卒業しています。しかし、教育学部以外の学生が真に教職を志望していても、そこに十分な指導を届ける全学組織体制はこれまで存在しませんでした。教職の選択は学生の任意であり、大学は教員免許の取得を遺漏なく進める事務手続を保証するにとどまっていたのです。教職課程の履修を支援したり、教員採用に向けた相談体制を整えたり、教育現場に学ぶ機会を提供したりすることで優れた教師を育もうとする意志は、必ずしも明確では無かったのです。

このような課題に 대응するために、本学教育学部・大学院教育学研究科の先進的かつ抜本的な教員養成教育改革の成果を基盤として、教師教育開発センターを創設しました。学部の枠を越えて教職課程を担い、その質保証に取り組む全学施設の設置は、国立大学でも初の取り組みです。本学が掲げる全学教職課程のディプロマ・ポリシー「ESDの理念をもち、4つの力で構成される教育実践力をバランスよく身につけた反省的で創造的な教員」とは、日本の教員養成の未来を本学から提案・創造しようという決意を込めたものです。

現在、センターでは文部科学省大学教育推進GP「総合大学が担う教員養成の質保証」、ならびに（独）科学技術振興機構「理数系教員（コア・サイエンス・ティーチャー）養成拠点構築事業」に取り組んでいます。また平成23年度からは「教員の資質向上に寄与する「大学と学校・教育委員会の協働」の実現—学校改善との連動で教員養成教育を進化させる」と題し、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会、倉敷市教育委員会等との連携協力のもと、新たな教員養成の仕組みを創造する事業に取り組むことにしています。

『教師教育開発センター紀要』は、このようなセンターの活動を支え、また刺激する学術研究並びに実践研究を広く公募し、その成果を世に問いかけようとするものです。巻末に掲載の「要項」にもある通り、教師教育と教育実践に関する実践的・理論的研究であれば、所属を問わず、いずれの本学教員も投稿して頂けます。第1号では、紀要編集委員会の議を経て11本の論文を掲載することができました。この紀要が教員養成改革の原動力となることを祈念し、併せて皆様のご指導、ご協力をお願いする次第です。